

令和7年6月19日

鶴岡市議会議員 各位

総務部長 森 屋 健 一
(財政課扱い)

令和7年6月市議会定例会一般質問への補足説明資料の訂正について

令和7年6月18日に送付した表記資料について、一部誤りがありましたので、訂正の上、差替えいたします。

○ 訂正箇所

5 ページ目（最終ページ）左側の吹き出しコメント中

誤 【補足1】

- ・ 保育所、アフターとも1か月当たりの利用者数

正 【補足1】

- ・ 遊び場は、延べ利用者数
- ・ 保育所、アフタースクールは、定員数×12か月の意味
(保育：50人×12か月)
(アフター：100人×12か月)

誤 【補足2】

- ・ 保育所、学童とも年間の利用者数

正 【補足2】

- ・ 遊び場、保育所、学童すべて、延べ利用者数

令和 7 年 6 月 1 8 日

鶴岡市議会議員 各位

総務部長 森 屋 健 一
(財政課扱い)

令和 7 年 6 月市議会定例会一般質問への補足説明資料について（送付）

令和 7 年 6 月 1 6 日の一般質問での質疑に関しまして、別添のとおり補足説明資料を送付いたします。

○資料の概要

1 佐藤昌哉議員（健康福祉部）

- (1) ソライの利用料には、利益と経費が含まれており、経費分を超えて市が利用料の全額を支出するのは利益供与に当たるのではないかとの指摘については、この実証事業は、こどもの遊び場に関するこども・保護者の利用料負担を軽減することを目的とするものであり、施設の運営者への財政支援を目的とするものではないこと。
- (2) 利用料軽減実証事業補助金の予算の積算、算定根拠を示すもの（別紙 1）
- (3) ソライの利用料 1,500 円では、施設の運営費用の全額は賄えておらず、他の財源で補填している状況にあり、利用料から利益は発生していないことについて、令和 6 年 3 月に議会へ送付した 2023 年のソライの収支を基に示すもの（別紙 2）。

2 石井清則議員（農林水産部）

議員の持ち込み資料に基づく質疑のため、質問と答弁の内容が、第三者には理解しにくい状況にあったことから、補足するもの

佐藤昌哉議員の質問への補足説明資料

(令和7年6月16日 6月定例会一般質問関係)

【議員発言内容】

- ソライの経営状況を議場で示せないことについて一定の理解はするが、市からの補助金の算定根拠については明確に示すことが必要。
- ソライ利用料軽減をめぐる議論が市民、議会を二分しており、仮に自分が経営者であれば、本件予算の対象となることを断るか、企業努力として利用料を引き下げる。
- 今般の利用料軽減は、事業者が設定した利用料をベースとしている。利用料は、事業者の事業収入であり、利益と経費が含まれており、経費分を超えた支出は利益供与にあたるのではないか。

【説明・回答】

○ 今般、市当局が提案している実証事業予算案は、本年3月に策定した「遊びに本気宣言！」を実行する観点から検討、事業化したもの。こどもの遊び場に関するこども・保護者の利用料負担を軽減し、こどもまんなかの良質なサービスを提供していくための実証事業であり、施設を運営する側への財政支援を目的とするものではない。

○ 利用料軽減実証事業補助金の積算・算定根拠（ソライ関係）については、別紙1のとおり

○ 本実証事業に係る補助金については、事業期間中の利用者の予測（従前の利用者に、無償化による利用者の増加分を見込んだもの）を基に算定したもの。

○ 市当局の提案は、他自治体では無料にしている大型の屋内遊び場について、ソライの施設運営者の協力を得て公民連携とするため、民間のサービスを市が実質的に購入し、従前は支払いが必要だったこども・保護者に無償で提供するもの。（施設に対し、利用料相当分を補助金で交付し、こどもに無料で遊びを提供するもの※）

※個々の世帯に対して補助する事務の煩雑さを避けるため、利用人数分を一括で施設に補助する枠組み。

☆実証事業実施期間中の補助金の積算等

年齢	年間利用者数	料金（円）	金額（円）
0歳	1,000	0	0
1歳	1,600	500	800,000
2歳	1,800	700	1,260,000
3歳以上	18,300	1,500	27,450,000
付添いの大人	13,000	500	6,500,000
合計	35,700		36,010,000



8か月分（実証事業期間）		
見込み	こども	15,200人
	大人	8,600人
	計	23,800人
		24,000千円

※利用者数は、親子モニター期間中の利用実績をもとに推計

※料金に企業の利益が含まれているとの指摘に関しては別紙2のとおり

☆利用料軽減による利用者数変化のイメージ

令和6年度の利用者
（市民・8か月換算）

民間事業者単独による
サービス提供

10,397人



公民連携による
無償化サービスの提供

無償化による
利用増分
13,403人

従前の利用者分
10,397人

令和7年度実証期間
（8カ月）の利用者

- ソライの利用料金、例えば1回1,500円（3歳以上）に関する、収入・費用等の構造、関係は以下のとおり。
- 現状では、民間事業者単独（ソライ側）の企業努力（ソライソーラーなど）によって、サービス提供が継続されており、利用者による1回1,500円の収入のみでは、利益は発生していない。
- 物価高騰の下、光熱費や人件費が上昇する中、これまでソライソーラーなどの企業努力によって、サービス提供を継続してきた経過がある。実証事業実施後にさらに精査するが、現時点では利用1回あたりの費用2,324円※に対し利用料金の1,500円は過大ではなく、妥当なものと双方一致している。

利用1回あたりの費用※
(2,324円)

・ 費用9,901万円を2023年度の
利用者数42,605人で割ったもの

利用料以外の収入 824円 (35.5%)
利用料金 1,500円 (64.5%)

ソライ年間運営に要する収入・費用（2023年1月－12月）

その他収入 1,223万円
ソライソーラー・ ソライサポーター 収入 5,570万円
利用料収入 3,975万円



その他 (地代家賃・消耗品・修繕等) 3,587万円
業務委託費 1,370万円
施設維持管理費 923万円
材料費 185万円
光熱水費 353万円
人件費 3,483万円

石井清則議員の質問への補足説明資料①

(令和7年6月16日 6月定例会一般質問関係)

【議員発言内容①】

- (1)ソライがオープンしてからの年度ごとの利用者数は？
- (2)農山漁村振興課を通じて国・県に報告した数字が、毎年約1万人多いのは？
ソライソーラーや山形会議のHPで公表されている人数との違いは？
- (3)R2年度以降は目標値に届かず、R5年度は半分以下だが、市の考えは？

【説明・回答】

- (1)利用者数は、ビジターやマンスリーパスでアソビバやツクルバを利用した人数①。
- (2) 交付金要領等に基づく国・県の報告人数は、R2年4月開設の放課後児童クラブの児童②を含めたもの。事業主体等のHPに掲載された人数の根拠は把握していない。
- (3)国・県の交付金要領等により目標値に対して3年連続70%未満や単年度で50%未満の場合等は改善措置等が必要としているが、コロナ感染症は事業主の予測不能な事態に該当し、改善措置等は不要であると国・県へ確認済み。

市の補助金も国・県の交付金要領等に準じているため、改善措置等は不要。 (単位：人)

	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
(1)利用者数 ①	42,965	60,605	21,955	30,852	38,473	42,605	43,783
(2)国・県への報告人数 ①+②		60,605	27,260	39,379	48,527	53,187	R7.6末報告
うち放課後児童クラブ分 ②	-	-	5,305	8,527	10,054	10,582	
(3)国・県に報告した目標値 (アソビバ、ツクルバ、放課後児童クラブの利用人数)		10,000	40,000	50,000	76,000	113,430	

※すべて4月から翌年3月までの年度での集計

石井清則議員の質問への補足説明資料②

(令和7年6月16日 6月定例会一般質問関係)

【議員発言内容②】

➤ 国・県に提出した投資効果を求める資料のなかに地域コミュニティ維持形成効果という項目があり、ここでも利用者数を示している。

(4) 2回提出している資料の数値の違いは？

(5) 特にR 6年6月提出分の資料は、先に示した利用者数や放課後児童クラブを含めた人数とも異なっているが、数字の根拠は？ また、計画変更の必要性は？

【説明・回答】

(4) 投資効果を求める資料は、補助金申請時のH29年6月と施設設置後5年経過したR 6年6月の2回提出しており、それぞれ事業計画段階と事業実績段階を記載。

(5) ここでの年間利用者数には、アソビバやツクルバを利用した人数に放課後児童クラブの児童分、さらに施設内にある保育所の児童数分を加えたもの。

・ R 6年6月報告分の利用人数に誤りがあり、正しい数値の精査と報告書の訂正の必要性について確認中。

H29年6月提出分(交付金申請時)

施設名	年間利用者数 (人)
遊び場	71,260
保育所	600
アフタースクール	1,200
計	73,060

【補足1】

・ 遊び場は、延べ利用者数
・ 保育所、アフタースクールは、
定員数×12か月の意味
(保育：50人×12か月)
(アフター：100人×12か月)

【補足2】

・ 遊び場、保育所、学童
すべて、延べ利用者数

R 6年6月提出分(R 5実績)

施設名	年間利用者数 (人)
遊び場	53,187
保育所	8,750
学 童	17,388
計	79,325

【誤り1】

・ 正しくは42,605人

【誤り2】

・ 正しくは10,582人

【誤り3】

・ 正しくは61,937人